

平和を希求する心を育てる取組

報告年月日 令和3年4月1日
都市名・国 長崎県大村市（日本）

取組の名称	郷土史クラブ活動内における戦争遺跡・戦時資料の活用
実施主体 (該当項目に✓)	<input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input type="checkbox"/> 複合（ ）
テーマ・目的	郷土における戦争の記憶の継承
対象者 (年齢・学年、人数等)	郷土史クラブ 小学4～6年生 計32人（2校）
実施場所	市内小学校のうち2校
実施期間	1校目 令和2年11月19日 2校目 令和2年12月15日、令和3年1月12日
<p>取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土史クラブは、大村の歴史について市の学芸員と一緒に調査・研究を行う、市内の小・中学校に設置されるクラブである。大村市歴史資料館主体の教育普及事業の一つで、市の学芸員は郷土史クラブの児童・生徒たちの調査・研究活動のサポートを行っている。年度末には、児童・生徒が年間の活動成果をステージ発表やポスターセッション等で発表し、その後、各校の成果物と学芸員が選んだ歴史資料で構成した企画展を歴史資料館で行う。 令和2年度は学芸員が小学校2校に戦時資料を持ち込み、生徒が実物資料に触れながら、戦時中の郷土を伝える資料の観察を行う機会をそれぞれ一度設けた。 うち1校は旧軍需工場敷地内に学校があり、付近に関連史跡である第21海軍航空廠本部防空壕跡（市指定史跡）があることから、この史跡を見学した。 上記の活動を踏まえ、戦争遺跡や戦時資料についての紹介や印象を、児童が新聞形式でまとめた。 児童の成果物を、実際に触れたものや内容を補う歴史資料と共に歴史資料館の企画展「郷土史クラブの挑戦!!2021」（令和3年3月13日～4月11日）で展示し、戦争と郷土について大村市民に伝えた。 	
<p>参加者の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> （防空壕の）中は狭くて多くの人がこの中に入るのは無理だと思いました。（4年生） 穴があいた壁（弾痕等が残る防空壕入口）を見て怖いなと思った。（5年生） 昔の人はものすごく薄い防空頭巾で爆弾から身を守ろうとしたということは、日本はとても貧しかったのだと思います。あまり丈夫にしすぎたら、武器が造れなくてまともに戦えなくなるからなのだと思います。防空頭巾はなくなったらもう一度買っていたのか、そもそも売っているのかなども気になりました。自分でももっと調べたいと思いました。（6年生） 	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 平和学習などで扱う「戦争」について、生徒が郷土の資料を通して立体的に捉えるきっかけを作ることができた。 校区や郷土の歴史を語る上で「戦争」が大きなポイントとなることを伝えることができた。 	
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史資料館から持ち出せる資料が限られるため、毎年同じ資料を扱うことになるという懸念がある。 	

取組で使用した素材について

歴史資料 …防空頭巾、空襲で溶けたリベット、神風鉢巻、代用陶器「防衛食」、爆弾の破片、弾丸(個人蔵)

書籍 …「大村市の文化財」(大村市教育委員会 2012)

上記素材の共有の可否(取組で使用した素材を、平和首長会議のWEBサイトに掲載し、他都市と共有することに、著作権その他の問題がないか、次からお選び下さい。)

掲載可能(素材を添付してください)

掲載不可

不明

※ 画像等の資料がある場合は別ファイルで提出してください。

児童が実際に触れた歴史資料



防空頭巾



大村大空襲で溶けたリベット



神風鉢巻



代用陶器「防衛食」



破片爆弾の翼部

見学した史跡（市指定史跡 第21 海軍航空廠本部防空壕跡）



弾痕などが残る部分



見学風景